

多摩部の都立公園では、レンジャーが自然を守り、その素晴らしさを伝えています。

多摩部の公園で見られる哺乳類

※大きさは、鼻先からしっぽの根元までの長さです。



大きさ:40~50cm

1. ホンドタヌキ (イヌ科)

特徴：顔の黒模様は左右でつながらず、脚が黒い
都市部の公園などにも生息しており、市街地でも見かけることがあります。同じ場所に複数の個体が糞を貯める「貯め糞」を行う習性があり、生息の目印になります。



大きさ:40~60cm

3. ニホンアナグマ (イタチ科)

特徴：目の周辺だけが黒く、爪は大きく鋭い
名前にクマと付いていますが、イタチの仲間です。穴掘りが得意で、大きく鋭い爪は穴を掘るのに役立ちます。目が悪く、人に気付かず近づいてくる場合があります。



大きさ:42~60cm

2. アライグマ (アライグマ科)

特徴：顔の黒模様は左右でつながり、しっぽは縞模様
もともと北アメリカ原産の外来種で、近年都市部でも見られるようになりました。雑食性で、農作物への被害や希少動物の捕食などが問題となっています。



大きさ:50~70cm

4. ハクビシン (ジャコウネコ科)

特徴：顔の中心に白い筋があり、しっぽが細長い
木登りが得意で、電線を伝って移動することがあります。時折民家の屋根裏などに住み着くことがあり、糞尿による悪臭や汚れの被害を引き起こすことがあります。

同じ穴のムジナ

一見違うように見えても、実は同類や仲間であることを表すことわざとして「同じ穴のムジナ」というものがあります。このことわざは、かつてアナグマやタヌキは同じ種と考えられており、まとめてムジナと呼ばれていたことに由来します。

同じ種と考えられていた理由としては、アナグマが掘った巣穴にはタヌキ等の他の動物が住み着くことがあり、同じ巣穴を使うなら同じ種類だろうと思われていたからです。実際にアナグマの巣穴の前に設置したセンサーカメラには多くの動物が撮影され、自分の住みかに行けないか、穴の中を覗いている様子が伺えます。



アナグマ(穴の主人)



タヌキ



ハクビシン



アライグマ

穴から出てきたアナグマと巣穴を覗く動物達

多摩部の公園で見られる哺乳類

※大きさは、鼻先からしっぽの根元までの長さです。



大きさ:8~14cm

5. アカネズミ (ネズミ科)

特徴:赤茶色をした毛色で、尾の長さは体長と同じくらい
森林や田畑、河川の藪等に生息し、植物の種子や昆虫を食えます。秋にはドングリやクルミ等の木の実もよく食べ、クルミの硬いカラに丸い穴を開けることができます。



大きさ:12~16cm

6. アズマモグラ (モグラ科)

特徴:毛は密生し、ビロード状になる
地中にトンネルを掘り、その中で生活をします。地上に掘り出された土はモグラ塚と呼ばれ、生息の目印となります。地中にいるミミズや昆虫類を食べます。



大きさ:♂27~37cm,♀16~25cm

7. ニホンイタチ (イタチ科)

特徴:全体的に細長く、手足は短い
水辺周辺に好んで生息し、足には水かきが付いているため泳ぎはとても上手です。オスのほうがメスよりも大きく、倍近い体重差があります。



大きさ:45~55cm

8. ニホンノウサギ (ウサギ科)

特徴:全身の毛色は褐色だが、豪雪地帯では白くなる
夜行性で、昼間は藪の中や木の根元などで休息しています。基本的に単独で生活し、植物の葉や芽、樹皮等を食えます。



大きさ:50~75cm

9. ホンドキツネ (イヌ科)

特徴:しっぽが太くて長く、スリムな体形
タヌキと同じく古来より人との関わりが深く身近な哺乳類でしたが、タヌキに比べて近年は数が減少しています。日当たりのいい草地に穴を掘り子育てをします。



大きさ:100~170cm

10. ニホンイノシシ (イノシシ科)

特徴:雌雄ともに下顎の犬歯が発達し牙状になる
足が短く雪が苦手なため、豪雪地帯には分布しないと言われていましたが、近年は日本海側や東北北部などでも見られるようになりました。滝山公園や大戸緑地に生息しています。